

# 国立国会図書館



## 国際子ども図書館の新しいサービス

国際子ども図書館リニューアル記念展示会

「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」

上野の森に飛び出せ、あいうえの冒険隊！ 館種を超えた新しい連携のカタチ

本の森を歩く 第14回 明治の越境者たち

2016.5  
No. 661

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み/国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み/国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00			
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30			
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00	13:00～16:30	

■見学のお申込み/国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

## CONTENTS

- 02 蝶と貝殻 三岸好太郎筆彩素描集 夭折の画家が遺した「詩集」  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 国際子ども図書館の新しいサービス
- 10 国際子ども図書館リニューアル記念展示会  
「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」
- 16 上野の森に飛び出せ、あいうえの冒険隊！  
館種を超えた新しい連携のカタチ
- 22 本の森を歩く 第14回 明治の越境者たち

- 29 館内スコープ  
いろんな雑誌と出会う日々

- 30 本屋にない本  
○『三重県史 資料編 古代・中世（上・下・別冊）』

- 26 TOPIC  
○電子展示会「日本の暦」をリニューアル公開しました！

- 31 NDL NEWS  
○新館長就任  
○法規の制定  
○おもな人事  
○国際政策セミナー「グローバル化の中の議会の役割  
—欧州の経験から日本への示唆」  
○平成27年度書誌調整連絡会議

- 37 お知らせ  
○日仏フォーラム「書籍とデジタル」  
○東京本館「利用ガイダンス」  
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物



## 蝶と貝殻 三岸好太郎筆彩素描集 夭折の画家が遺した「詩集」

石田 暁子

三岸好太郎（1903-1934）は、昭和初期の画家である。

北海道から上京後、独学で絵を学んでいた三岸は、小杉放庵（1881-1964）らが設立した洋画団体・春陽会の展覧会に若くして入賞し、脚光を浴びた。昭和5（1930）年に、フランス帰りの気鋭の画家たちが中心となって独立美術協会を設立する際には、三岸も春陽会を離れて参加し、31歳で亡くなるまで同会を中心に活動した。

10年余りの画業の間に、三岸の作風は、素朴派風、文人画風、フォーブ風と変化し、抽象絵画を経てシュールレアリスム風絵画へと転換した。妻の画家・三岸節子（1905-1999）らが述懐するように、三岸は感情の赴くまま、次々と心惹かれる題材や技法に入れ込む性質だったらしい。三岸はこの姿勢をカメレオニズムと呼び、「自分の転換を変化と見るか発展と見るかは各自の自由である」と言っている<sup>1</sup>。

昭和9（1934）年3月に始まった独立美術協会の展覧会に、三岸は、彼の最後のモチーフとなる蝶と貝殻を描いた油彩の連作7点を出品した。早描きの三岸は、展覧会の直前10日ほどでこの連作を描き終え、引き続き、同じく蝶と貝殻をテーマとした素描10点を一気に制作した。これを凸版印刷し、手描き彩色して100部限定で刊行したものが、『蝶と貝殻 三岸好太郎筆彩素描集』である<sup>2</sup>。手描き彩色の表現は1冊ごとに異なるため、各冊がそれぞれ唯一無二の作品となっている<sup>3</sup>。

発行元の芸術学研究会は、美術評論家・外山卯三郎（1903-1980）の主催である。外山は独立美術協会の後援者で、素描集の刊行は

外山と三岸が2人で計画したものであった。

三岸は一連の蝶と貝殻の作品を、「視覚詩」「絵で表した詩」と位置づけており<sup>4</sup>、外山も『蝶と貝殻』の序文で、同書を「三岸君の一つの夢の詩集」「ポエジイを文字で語らないで、ただ素描の力によつて描き出した」と評している。一方で三岸は、同時期に刊行の美術雑誌『アトリエ』第11巻5号（昭和9年5月）に「蝶と貝殻（視覚詩）」と題する詩を寄稿しており、その内容は油彩や素描で描かれたイメージに通じる。これらの絵と詩による作品は、言語と視覚の双方から両者の融合を図ろうという、三岸の試みにも見える。

上記『アトリエ』における本書の紹介文には、「舶来ものの様な装幀が既に、ひどく魅力的である」とある。赤い表紙に銀の内表紙、スプリング綴じという造本は、当時、機械美に傾倒していた三岸の好みを実現したものであったが、本来、表紙には金属板を使いたかったらしく<sup>5</sup>、銀色の内表紙はその代替だったのではないかともいわれている。

本書刊行の3か月後、三岸は旅先で急死した。残された者は、三岸が最後に描いた蝶と貝殻の世界を、奔放なロマンチストだった故人の面影に重ねた。三岸は、「この次には絵で小説を試る」「来年はうんと健康な絵をゑがく」と予告していた<sup>6</sup>。ついに描かれることのなかったそれらの作品の中には、どんな世界が広がるはずだったのだろうか。

（いしだ あきこ

利用者サービス部サービス運営課）

1 里見勝蔵「三岸好太郎君」『独立美術』4 1933.1 <請求記号Z71-V419>/三岸好太郎「転換」『独立美術クロニク』9 1933.8 <請求記号Z71-V418>

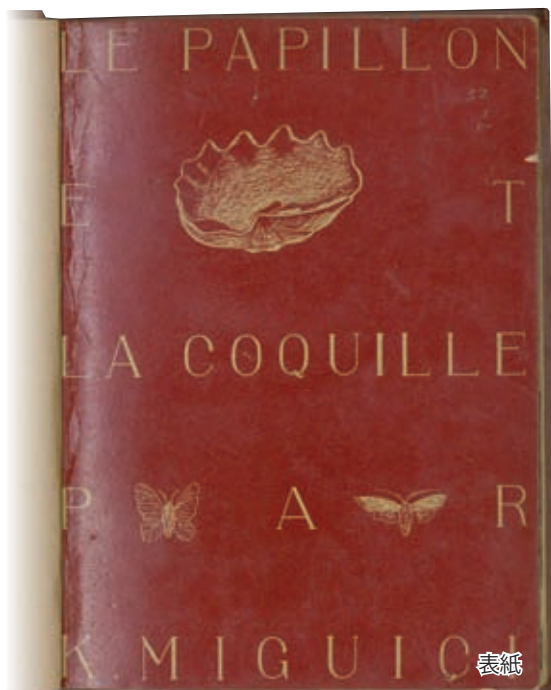
2 『蝶と貝殻』の成立や内容については、参考文献に挙げた苦名真氏の論考に詳しい。苦名氏が現存を確認・推定した『蝶と貝殻』は、当館所蔵分を含め12冊。北海道立三岸好太郎美術館所蔵分については、1983年に複製版が刊行されている（当館未所蔵）。

3 『蝶の夢・貝の幻：1927～1951 昭和前期の日本超現実主義』<請求記号KC16-E2108>、『蝶と貝殻：三岸好太郎の夢の視覚詩』<請求記号KC16-G1569>、『三岸好太郎展：生誕100年記念』<請求記号KC16-H454>、「文化遺産オンライン」（<http://bunka.nii.ac.jp/>）などで、限定番号の異なる複数の図版を見比べることができる。

4 三岸好太郎「ロマンチズム 蝶と貝殻の弁」（佐渡久士宛書簡 昭和9年）『感情と表現』中央公論美術出版、1983 <請求記号KC21-23>/「あの人の人三岸好太郎氏」『アトリエ』11(4) 1934.4 <請求記号Z11-29>

5 山脇巖「間に合はなかつた三岸君の画室」『アトリエ』11(8) 1934.8 <請求記号Z11-29>

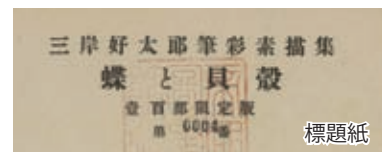
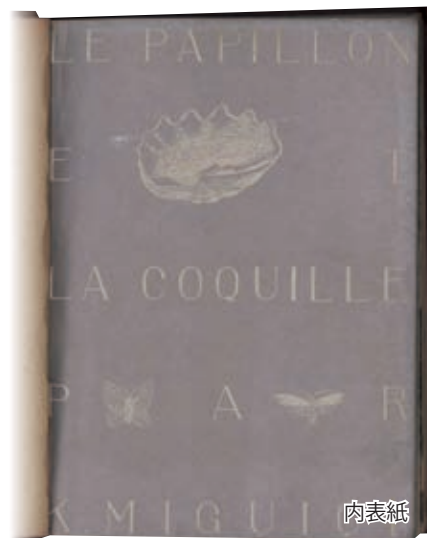
6 「あの人の人 三岸好太郎氏」（前掲注4）/三岸節子「断想」『独立美術クロニク』15 1934.12 <請求記号Z71-V418>



### 蝶と貝殻 三岸好太郎筆彩素描集

三岸好太郎著 芸術学研究会 昭和9年 <請求記号428-42>

国立国会図書館デジタルコレクションでの閲覧となります。国立国会図書館内および図書館送信参加館内でご覧いただけます。



当館所蔵本は限定番号0004。

帝国図書館時代に糸綴りに改装されており、残念ながらスプリング綴じの原装は残っていない。スプリング装の採用については、当時三岸が熱中していた建築に関する雑誌から影響を受けた可能性が指摘されているが、『蝶と貝殻』の前年に出版された、金属表紙にスプリング綴じの写真集『初夏神経』（小石清著 浪華写真倶楽部 昭和8年）も、あるいはヒントになったかもしれない。



#### 蝶ト貝殻（視覚詩）より抜粋

ヴィナスノ生レル貝

音楽ガ聞エル

バンドホテルノ前面ハ水ト

コンクリートアスファルト

ヴィナスノ生レル貝

現在ヲ感覚ノ陶醉主義者トテ笑ヘヨ

黒アゲハ蝶ハ玉蟲色ノ光澤ヲホコル

白モンハ蝶ハ女性的ナ形式感情ヲ持ツ

ホテルノ鎧戸ハ白ク

外界ハ薄暮デアル

トギスマサレタテーブル

パイプノベッドハ冷ク白布ハ衛生的デアル

トランクヨリ取り出サレタ貝殻ハ重大ナ物語リヲ始メタ

『アトリエ』第11巻5号

#### ○参考文献

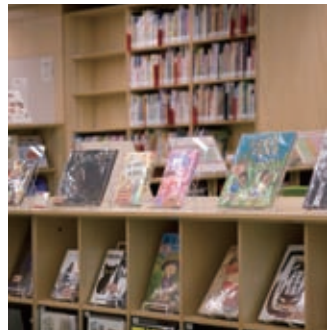
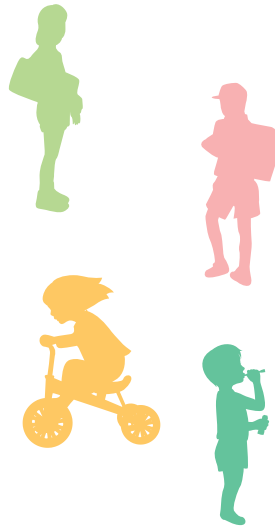
苫名真「三岸好太郎の筆彩素描集『蝶と貝殻』について」『紀要』1998-99 北海道立近代美術館〔ほか〕1999.3

佐藤由美加編「参考文献」『三岸好太郎展：生誕100年記念』東京新聞 2003  
平井章一編『三岸好太郎 吉原治良・抒情のコスモロジー』本の友社 2001  
『別冊アトリエ』39 婦人画報社 1957.10

『三岸好太郎画集：1902-1934』美術出版社 1950 ほか



# 国際子ども図書館の 新しいサービス



## はじめに

国立国会図書館国際子ども図書館の新館「アーチ棟」が、平成27年6月末に竣工しました<sup>1</sup>。9月17日には、アーチ棟2階に「児童書研究資料室」を<sup>2</sup>、平成28年2月2日には、レンガ棟（既存棟）2階に「調べものの部屋」と「児童書ギャラリー」を開室しました。3月1日には、レンガ棟1階の「子どものへや」と「世界を知るへや」を改修リニューアルオープンしました<sup>3</sup>。

## レンガ棟



国際子ども図書館は、レンガ棟のエントランスから、どなたでも入館いただけます。

### (1) 子どものへや、世界を知るへや

子どものへやは、子どもと本のふれあいの場として、主に小学生以下向けの絵本や児童書を開架しています。この部屋では、親子でより自由に読書を楽しむよう、靴を脱いで本を読むことができるスペースを新設しました。

世界を知るへやは、世界の国や地域を知るための国内外の児童書を開架しています。改修前よりも外国の児童書を充実させました。

### (2) 調べものの部屋

レンガ棟2階の調べものの部屋には、主に中高生の調べものに役立つ資料約1万冊を開架しています。この部屋では、平成28年4月から、修学旅行や校外学習のグループを対象とした、予約制の「調べもの体験プログラム」を開始しています。中高生が活発にグループ討論を行いながら、調べものの部屋の資料・端末を利用した「図書館における調べもの」を

体験することができます。



### (3) 児童書ギャラリー

レンガ棟2階の児童書ギャラリーは、帝国図書館時代には特別閲覧室でした。その優美な雰囲気を生かし、明治から現代までの日本の児童文学史・絵本史をたどる常設の展示室としてオープンしました。展示している約1千冊の資料は手に取って読むことができます。このほか、室内の端末で提供する「国立国会図書館デジタルコレクション」や「絵本ギャラリー」でご覧いただく作品もあります。

### (4) 本のミュージアム、ホール

本のミュージアムでは、リニューアルを記念する展示会「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」を開催しています（本誌pp. 10～15参照）。同展示会は、7月24日までの会期ですが、それ以降も、国際子ども図書館が所蔵する豊富な蔵書を魅力的に紹介する展示会を、順次開催していく予定です。

ホールは、音楽会などのイベント会場として用いられるほか、帝国図書館時代からの歴史や建物の紹介を行う展示コーナーもあります。平成28年3月26日には、「子どものための絵本と音楽の会『ぐるんぱのようちえん』」を開催しました（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）。

### (5) 休憩・飲食・授乳スペース

レンガ棟1階には、休憩・飲食・授乳スペースを設けました。休憩・飲食可能なスペースに加えて、救護室、授乳室、調乳室、おむつ替えコーナーなどを備えています。



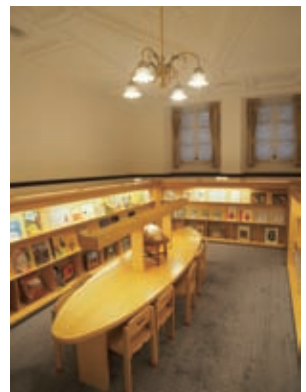




子どものへや



世界を知るへや



児童書ギャラリー







## 調べものの部屋

### 調べものの体験プログラムとは（コース紹介）

「調べものの体験プログラム」では、「図書館で調べものをする」を、様々な形で体験します。プログラムは、中学生向けの3コース、高校生向けの3コース、計6つのコースで構成されています。各コースの参加可能人数は5～20名までです（一部のコースでは20名を超えるクラス単位での参加も可能）。

\*申込み方法等、詳細はホームページをご覧ください。<http://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

#### A. 「調べもの対戦」コース（対象 中学校）

調べものの部屋の資料と端末を用いて、課題解決の正確さとスピードを、チームで競い合います。

#### B. 「調べものクイズ」コース（対象 中学校 ※20名を超えるクラス単位での参加も可能）

調べものの部屋の資料と端末を使って、クイズに挑戦します。

#### C. 「ストーリー創作」コース（対象 中学校）

外国語の絵本を使って絵だけでストーリーを想像し、その面白さを競います。

#### D. 「文献探索」コース（対象 高等学校 ※20名を超えるクラス単位での参加も可能）

図書館で調べものを、利用者と図書館員、「2つの視点」から体験します。

#### E. 「部活に活用」コース（対象 高等学校）

高校生にとって身近な「部活」をテーマに、図書館での調べものが、実生活にいかに関与するかを体験します。

#### F. 「POP広告」コース（対象 高等学校）

本屋さんでよく見かけるPOP広告の文言（コピー）を、短時間で作ります。

### 国際子ども図書館の開館日および開館時間

開館日：火曜日～日曜日（下記休館日を除く）

※ 休館日は月曜日、国民の祝日・休日（5月5日のこどもの日は開館）、毎月第3水曜日（資料整理休館日）、年末年始

開館時間：9時30分～17時

※ 資料請求受付は9時30分～16時30分、複写受付は10時～16時（後日郵送複写受付は16時30分まで）





### (1) 児童書研究資料室

アーチ棟2階には、児童書に関する調査研究のための資料室である児童書研究資料室が開室しました。

児童書研究資料室の入室には、国立国会図書館登録利用者カードの提示など、一定の手続きが必要です。開架資料は約4万冊で、日本の児童書（最近受け入れたもの）、外国の絵本、国内外の児童書に関する参考図書・研究書、現行の日本の教科書などが開架されています。読書活動推進支援に関する資料のコーナーや、国際子ども図書館所蔵資料をテーマに応じて紹介する小展示のコーナーもあります。以上の開架資料に加えて、書庫資料の請求やデジタル化資料の閲覧のための端末を増設するなど、研究しやすい環境を整備しました。なお、個人の方への資料貸出しは行っていません。

資料室内にはグループ研究室が置かれています。グループ研究室は、6名程度までのグループの調査研究に用いることが可能な個室です（予約制）。児童書を活用した討論や研究会などにご利用いただいています。

### (2) 書庫

国際子ども図書館は、国立国会図書館の法定納本制度などにより収集した国内の児童書を所蔵するとともに、約140の国・地域の児童書を所蔵しています（平成26年度末の外国児童書は約9万冊。国内児童書等を合わせると約40万冊）。

アーチ棟地下1階・2階の書庫全体で65万冊規模の収蔵能力があり、従来からのレンガ棟書庫と合

わせ、国際子ども図書館全体の資料収蔵能力は100万冊規模となりました。

### (3) 研修室1、研修室2

アーチ棟1階には、各種研修、講演会、イベントなどを行う、大小の研修室を2室備えています。アーチ棟完成後、これまでに、内外の作家や研究者による講演会など次のようなイベントを実施しています。

#### アーチ棟研修室で実施した講演会 <平成28年>

- 2月21日 講演会「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェットー絵に生きる」
- 3月27日 講演会「翻訳という魔法のメガネー海外児童文学受容の50年」
- 4月23日 講演会「私が子ども時代に会った本一中島京子」（日本ペンクラブとの共催）

### おわりに

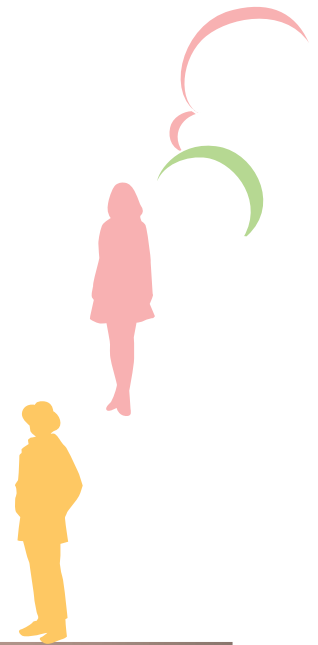
国際子ども図書館には、次の3つの基本的な役割があります<sup>4</sup>。

- ①児童書専門図書館としての役割
- ②子どもと本のふれあいの場としての役割
- ③子どもの本のミュージアムとしての役割

これらの役割は、国際子ども図書館の来館サービスや各種イベントに加えて、調査研究、研修、情報発信などを通して果たしていきます。そのような中で諸機関との連携の下、子どもの読書活動推進に資する事業を行い<sup>5</sup>、新たに図書館員のための基礎的な研修実施などの取り組みを進めます。国際子ども図書館では、こうした事業の充実にも努めつつ、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念の実現に向け、サービスの向上を図ってまいります。

(国際子ども図書館)





## 児童書研究資料室



- 1 本誌652/653 (2015年8/9月)号 pp.4-19  
同年9月16日には、国際子ども図書館新館完成記念式典を開催し、多くの方々のご臨席を賜りました。本誌656 (2015年12月)号 p.26
- 2 本誌656 (2015年12月)号 pp.22-23
- 3 なお、レンガ棟の施設保全改修(屋根、外壁等の改修)は、平成28年6月末までには終了する予定です。
- 4 「国際子ども図書館第2次基本計画」(平成23年3月策定)によります。
- 5 「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画2015」(平成27年3月策定)参照。  
<http://www.kodomo.go.jp/promote/suishin2015.html>





国際子ども図書館 リニューアル記念展示会

# 「現実へのまなざし、夢へのつばさ： 現代翻訳児童文学の半世紀」

国際子ども図書館のリニューアルを記念して、1970年代以降の翻訳児童文学の展開を俯瞰する展示会「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」をレンガ棟3階、本のミュージアムにて開催しています（7月24日（日）まで）。本稿では、展示会の概要、そして各章の切り口と代表的な作品を数点ずつ紹介します。

## 1970年代以降の翻訳児童文学の特色

平成12（2000）年の国際子ども図書館開館時には、外部の所蔵機関・個人からも資料の提供を受けて、「子どもの本・翻訳の歩み展」を開催しました。その展示会では、1960年代までに刊行された翻訳児童文学を対象範囲としました。それを受けて今回の展示会では、1970年代以降の翻訳児童文学を扱っています。

古典的作品のなかから未訳のものをピックアップして翻訳していた名作紹介の時代が1960年代で一段落し、1970年代以降は翻訳作業が原作の刊行に追いついて話題作が矢継ぎ早に翻訳刊行されるようになりました。また、「めでたし、めでたし」では終わらない、かつての児童文学においては目を背けていたような現実問題を題材にした作品が台頭してきたこと、ヤングアダルト（YA）と呼ばれる、児童文学と大人向け文学の間を埋めるような作

品群が現れたことなども、1970年代以降の特色といえます。

## 展示会の構成

今回の展示会では、時系列に沿って作品を紹介するのではなく、8つの切り口から章立てを構成しています。なかでも、過酷な現実を直視した作品群と、〈ハリー・ポッター〉シリーズに代表されるファンタジーの作品群を、この年代を代表する二大潮流と見なして、展示会のタイトルを「現実へのまなざし、夢へのつばさ」としました。



## 第1章 子ども像の展開

かつては子どもを純粹無垢な存在として描くのが常套表現でしたが、大人たちの眼のとどかないところではいじめを繰り返すなど、その邪悪な側面を暴き出す作品が登場します。また、子どもに降りかかる体験としてはあまりに過酷とも思える設定の話も増え、それに勇敢に立ち向かう主人公が、少年ではなく少女であったりするのも新たな傾向といえます。

この章では、校長から禁止令が出されるほど商売に熱中する子どもたちが奮戦する『お金もうけは悪いこと?』や、家族に先立たれ心を閉ざした主人公と、どこか現実離れた少女とのふれあいを描く『思い出のマーニー』など22作品を紹介します。



**お金もうけは悪いこと?** アンドリュー・クレメンツ 作; 田中奈津子 訳  
講談社 2007 <請求記号 Y9-N07-H362>

**思い出のマーニー 上・下** ジョン・ロビンソン 作; 松野正子 訳 (岩波少年文庫) 岩波書店 2003 <請求記号 Y7-N03-H88, Y7-N03-H89>

## 第2章 家族像の変容

子どもにとって外敵から自分を守ってくれる安息の地であったはずの家族は、ときには虐待、育児放棄、離婚争議など、どこか他の場所へと逃げ出したくなるような環境へと変貌することもあります。そのような血を分けた家族の間での骨肉の争いが描かれる一方で、血のつながりが無くとも愛と信頼で結ばれた同居人たちが登場するなど、従来の固定的なイメージからは想像もできない新しい家族像が現れます。

この章では、西部開拓の時代にお互いを支え合う家族を描く『大きな森の小さな家』(テレビドラマ「大草原の小さな家」の原作)や、離婚した両親の再婚先を行き来させられる少女の物語『バイバイわたしのおうち』など25作品を紹介します。



**大きな森の小さな家** ローラ・インガルス・ワイルダー 作; 恩地三保子 訳; ガース・ウィリアムズ 画 福音館書店 1972 <請求記号 Y7-3246>

**バイバイわたしのおうち** ジャクリン・ウィルソン 作; ニック・シャラット 絵; 小竹由美子 訳 (チア・ブックス; 10) 偕成社 2000 <請求記号 Y9-N00-41>

### 第3章 ジャンルの崩壊

テーマが多様化するにつれ、現実にあろうる話なのか絵空事の話なのかそのどちらともつかず、この2つの手法を自在に交ぜにした作品が登場します。また、ヤングアダルトと称される青少年読者層を念頭に書かれる本も増えて、一般向け文学との年齢的な境界さえあいまいになっていきます。児童文学は子どもに分かりやすい表現を用いて書くもの、といった約束事に縛られず、あらゆる既成の枠組みを超えた自由な試みが広がりを見せています。

この章では、架空の主人公と実在の人物、文章とイラストが混然一体となった『ユゴーの不思議な発明』や、人殺しの罪を被せられた青年が砂漠に置き去りにされるというサスペンス・ドラマ顔負けの展開を見せる『マデックの罨』など22作品を紹介します。



**ユゴーの不思議な発明** ブライアン・セルズニック 著；金原瑞人 訳 アスペクト 2008 <請求記号 KS171-J7>

**マデックの罨** ロブ・ホワイト 作；宮下嶺夫 訳 (海外ミステリーbox) 評論社 2010 <請求記号 Y9-N10-J145>



### 第4章 タブーへの挑戦

子どもに与える本はハッピーエンディングなものであるべき、という考えがあります。しかし子どもたちを取り巻く現実世界には、貧困、病気、性、死といった影の側面が存在し、子どもたちにもこれらと直面する事態がいずれ訪れます。日本の児童文学でも、ようやく最近になって、このようなシリアスな題材に真っ向から取り組んだ作品が発表されるようになってきましたが、英米ではすでに1960年代半ばから題材のタブーに挑戦するような作品が登場しており、これらの作品が児童文学賞を受賞し、映画化されることも特別なことではなくなっています。

この章では、不治の病で死期が近づいた先生のために生徒たちが最後のプレゼントを用意する『クララ先生、さようなら』、顔の半分に火傷を負った、暗い過去を背負っていそうな男に家庭教師を依頼する話『顔のない男』など、23作品を紹介します。



**クララ先生、さようなら** ラヘル・ファン・コーイ 作；石川素子 訳；いちかわなつこ 絵 徳間書店 2014 <請求記号 Y9-N14-L221>

**顔のない男** イザベル・ホランド 作；片岡しのぶ 訳 富山房 1994 <請求記号 Y9-1714>





## 第5章 戦争への視点

戦争児童文学といえば、敗戦を体験した側から戦争の悲惨さと非人道性を描く「反戦文学」がその大半を占めていました。しかし、戦時下の生活を淡々と記録した作品、戦争勃発によって民族分断されてゆく市民を描く作品、戦争加担者の責任を追及する作品など、さまざまな視点から戦争をとらえようとする試みが盛んになります。第二次世界大戦とユダヤ人強制収容所をテーマにした作品が圧倒的に多いですが、ローマ時代の戦争や湾岸戦争、近未来の核戦争を扱った作品も登場します。

この章では、核爆弾発射後の老夫婦の緩やかな死を描く『風が吹くとき』や、軍用馬として徴用された馬が、銃弾飛び交う中、敵・味方の間を翻弄されながら生き延びる『戦火の馬』など、27作品を紹介します。



**風が吹くとき** レイモンド・ブリッグズ 作；さくまゆみこ 訳 あすなろ書房 1998 <請求記号 KC486-G313>

**戦火の馬** マイケル・モーパーゴ 著；佐藤見果夢 訳 評論社 2012 <請求記号 Y9-N12-J55>



## 第6章 旧作の再解釈

世に知られた作品を土台にした、その変化球的バージョンともいえる作品が登場します。同一著者による数十年ぶりの続編、古典的作品の設定と登場人物を活かして展開する新たな物語、歴史上全く無名の人々を主人公に仕立てた歴史小説、勇ましい主人公役を少女たちが演じる大活劇などです。設定から予想される展開を大きく逸脱して自由奔放に飛躍する物語や、大団円を迎えたはずが意外な展開を見せる続編など、土台となった作品があつてこそ、その意外性が味わい深いものとなるのが変化球的バージョンの特色といえます。

この章では、「借りぐらしのアリエッティ」一家の21年ぶりの続編『小人たちの新しい家』や、<グリーン・ノウ物語>全編850年の時の流れを越えて主人公たちが一堂に会する最終巻『グリーン・ノウの石』など、25作品を紹介します。



**小人たちの新しい家** メアリー・ノートン 作；猪熊葉子 訳（小人の冒険シリーズ）岩波書店 1983 <請求記号 Y8-1158>

**グリーン・ノウの石** ルーシー・M.ボストン 作；ピーター・ボストン 絵；亀井俊介 訳（グリーン・ノウ物語；6）評論社 2009 <請求記号 Y9-N09-J124>



## 第7章 ファンタジーの隆盛

ファンタジーは19世紀から連綿と書き続けられてはいましたが、1997年の〈ハリー・ポッター〉シリーズの登場とその映画化により、一挙に市民権を得た感があります。このシリーズの成功は、多くの亜流の発表を促したばかりでなく、古典的作品の再評価と映画化という現象も巻き起こしました。マッチョな白人ヒーローが剣を振りかざして悪人を次々と倒していくようなヒロイック・ファンタジーは、ロールプレイングゲームの世界でも多用されて陳腐化してしまっていますが、このようなパターン化に陥らない、新しい世界観をもったファンタジーもアジアを含む世界各国から発表されています。

この章では、1970年代以降の翻訳児童文学の中では避けては通れないほどの知名度を誇る『ハリー・ポッターと賢者の石』のほか、古代中国を舞台に、奴隷の少女と最後の生き残りの龍の逃亡劇を描く『ドラゴンキーパー：最後の宮廷龍』など、29作品を紹介します。



ハリー・ポッターと賢者の石 J.K.ローリング 作；松岡佑子 訳 静山社 1999 <請求記号 Y9-M99-228>



ドラゴンキーパー：最後の宮廷龍 キャロル・ウィルキンソン 作；もきかずこ 訳 金の星社 2006 <請求記号 Y9-N07-H385>

## 第8章 1970年代以降の注目作家

これまでの7章で紹介できなかった作家の中から、ニューベリー賞（アメリカ）、カーネギー賞（イギリス）、国際アンデルセン賞を受賞した作家を中心に31作品を取り上げます。

怠け者の王子と叩かれ役の少年が追いはぎに取り換えられる、シド・フライシュマン（1987年ニューベリー賞受賞）の『身代わり王子と大どろぼう』や、50年以上もの間、オランダ中で親しまれた幼児2人のほのぼのの絵物語、アニー・M.G.シュミット（1988年国際アンデルセン賞受賞）の『イップとヤネケ』などを紹介します。



身代わり王子と大どろぼう シド=フライシュマン 作；谷口由美子 訳；ピーター=シス 絵（新・世界の子どもの本；5） 偕成社 1989 <請求記号 Y8-6960>



イップとヤネケ アニー・M.G.シュミット 作；フィーブ・ヴェステンドルフ 絵；西村由美 訳 岩波書店 2004 <請求記号 Y9-N04-H277>



## さまざまな国・さまざまな文化 ほか

1970年以降の翻訳児童文学はアメリカとイギリスで出版されたものの紹介が大半を占めますが、さまざまな国で書かれた、あるいはさまざまな文化を背景に書かれた29作品を紹介する特設コーナーを設けました。

南アフリカの鳥獣保護区に引き取られた少女の不思議な体験『白いキリンを追って』や、居留地の高校で停学処分になり、白人ばかりの高校に転校した少年のポップな青春記『はみだしインディアンのホントにホントの物語』などを紹介します。



**白いキリンを追って** ローレン・セントジョン 著; さくまゆみこ 訳 あすなろ書房 2007 <請求記号 Y9-N08-J24>

**はみだしインディアンのホントにホントの物語** シャーマン・アレクシー 著; エレン・フォーニー 絵; さくまゆみこ 訳 (Super! YA) 小学館 2010 <請求記号 Y9-N10-J46>

このほか、日本で映画化・アニメーション化された作品、海外でさまざまな言語に翻訳出版された日本の作品を紹介するコーナーがあります。

## おわりに

この展示会で紹介した本は、<ハリー・ポッター>やミヒヤエル・エンデの『モモ』など、映像化された作品以外は一般には馴染みの薄い作品が多いかもしれません。そうした未知の作品にも興味をもっていただけるように解説\*を添えました。今回紹介した300冊のなかには残念ながら、すでに絶版、なかには出版社自体が解散しているものもありますが、今回の展示が機会となって、図書館で手に取る人が増え、再出版されるなどの動きが起こればと願っています。

本展示会の企画にあたっては、平成24～26年度当館客員調査員の川端有子氏（日本女子大学家政学部教授）に監修を仰ぎ、田中美保子氏（東京女子大学准教授）、西村醇子氏（翻訳家）の助言を得ました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(国際子ども図書館資料情報課)



\*本展示会の解説本は、株式会社山越（〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-18 電話03-5413-7778（代表））から入手できます。頒価1800円（税込、送料300円）



# 上野の森に飛び出せ、 あいうえの冒険隊！

## 館種を超えた新しい連携のカタチ



### 「Museum Start あいうえの」とは

東京都立上野恩賜公園（上野公園）は、上野の森美術館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京国立博物館、東京都恩賜上野動物園、国立国会図書館国際子ども図書館、国立科学博物館、東京藝術大学、東京文化会館の9つの文化機関が集中して存在する文化ゾーンです。

この上野の地では、平成25年度から、9機関が連携して、子どもたちのミュージアム・デビューを応援し、学びの場を広げることを目的とするラーニング・デザイン・プロジェクト「Museum Start あ

いうえの」を実施しています<sup>1</sup>。国際子ども図書館もこのプロジェクトの開始以来、協力しています。このプロジェクトで提供される各種プログラムに参加した子どもには、9機関を紹介する小冊子「ビビハドトカダブック」<sup>2</sup>が入ったミュージアム・スタート・パックが配布され、また、子どもたちが9機関を訪ねた際に「ビビハドトカダブ」の呪文を唱えると、各機関のバッジをもらえるなど、子どもたちが、自主的に楽しみながらミュージアム体験ができるように様々な工夫がされています。



## 「あいうえの冒険隊」が生まれるまで

国際子ども図書館は、平成27年6月に敷地内に新館アーチ棟を増築し、リニューアルすることを記念して、初めて子ども向けのワークショップを行うことになりました。このワークショップの企画・実施に当たっては、国際子ども図書館、東京都美術館と東京藝術大学、そして東京文化会館<sup>3</sup>の4機関の担当職員、そして「とびラー」の皆さん<sup>4</sup>、さらに東京文化会館「ワークショップ・リーダー」の皆さん<sup>5</sup>がスタッフとして集い、密接に連携して検討が進められました。その結果、「あいうえの冒険隊」と題し、絵本鑑賞、美術作品製作、音楽・身体表現を融合させ、総合的な芸術体験ができることを目的として、小学生を対象に8月から10月までの各月1回ずつ計3回のワークショップを行うこととしました。また、ワークショップの題材として、2014年に国際アンデルセン賞<sup>6</sup>の画家賞を受賞した、ブラジルの絵本作家ホジェル・メロ（Roger Mello）<sup>7</sup>さんの作品を選びました。

スタッフ全員でメロさんの絵本を見ながら「あいうえの冒険隊」のテーマをじっくりと考えました。そして、メロさんの表現のように自在にイメージを膨らませ、子どもたちが「なりたいものになる」、「等身大の自分を様々な形や方法で表現する」ことに決定しました。さらに、森、動物、風、木といった「上野公園」から思い付くモチーフも取り入れることにして、最終的に「あいうえの冒険隊」の内容は次のようになりました。

- ① 図書館は本の森であり、本は世界につながる冒険の扉であるという設定に基づき、国際子ども図書館で世界の絵本を鑑賞する。

- ② 本の森から上野の森へ冒険の旅に出かけ、東京都美術館で「なりたいものになる」ための衣装を作る。

- ③ 東京文化会館で「なりたいもの」に近づくための音や音楽を考える。

- ④ 自作の衣装を身にまとして上野公園をパレードし、自分たちで考えたパフォーマンスを披露し表現する。

## 8月9日国際子ども図書館にて 絵本を鑑賞してアイデアを膨らませる

検討が終わり、いよいよ実践です。平成27年8月9日（日）、最初の会場となった国際子ども図書館のレンガ棟3階ホールには、公募で選ばれた小学校3年生から6年生までの約20名が集まりました。

最初に、国際子ども図書館職員が図書館の機能と役割について紹介した後、子どもたちとスタッフは、開催されていた「世界をつなぐ子どもの本—2014年国際アンデルセン賞・IBBY<sup>8</sup>オナーリスト図書展<sup>9</sup>」を鑑賞し、世界の作家が子どもたちに向けて、何を伝えようとしているのかを考えました。続いてメロさんの絵本をゆっくりと鑑賞します。メロさん





の絵本はブラジルの自然、社会、民俗等に深く根差し、卓抜した技術、自由な発想、イメージ豊かな詩や文で構成されています。また、鮮やかな色と様々な形や素材で表現された人、動物、海の生物や植物の絵には、文字同様に力強いメッセージが込められています。スタッフの支援も得ながら、子どもたちは思い思いに絵本を手に取り、色や形、イメージを味わいました。



Meninos do mangue / texto e ilustrações de Roger Mello.  
São Paulo : Companhia das Letrinhas, 2002. p.27 (挿絵)  
<請求記号 Y17-B5508 >

## 8月9日東京都美術館にて 「なりたいもの」になるための衣装を作る



メロさんの絵本を堪能した後は、上野動物園脇の道を通って東京都美術館へ向かいます。道中、子どもたちはスタッフと絵本の感想を語り合ったり、木々や葉、キノコ、塀を超えて見える上野動

物園の猛禽類、時折聞こえる動物の鳴き声など、見るもの・聞こえるものから多くの発見を得たりして、じっくりと「なりたいもの」のイメージを膨らませていったようです。

東京都美術館アートスタディルームに到着すると、そこには、各種プログラムの実施のために日頃から集められ、鮮やかに色分けされたHAIZAI（廃材：下写真参照）がずらりと並べられていました。これから「なりたいもの」になるための衣装や道具を製作します。

「なりたいもの」は形のあるものでもないものでもかまいません。子どもたちが選んだ「なりたいもの」は、魚、キノコ、家、恐竜、鳥、魔法使い、ひまわり、ヤシの木、ガスコンロ等々、大人の想像を超えて多種多様でした。スタッフから材料の使い方などについて説明を受けた後、子どもたちは好きな材料を選び、次々に製作に取り掛かりました。素材の組合せのコツや、部材の固定方法など、技術的に難しい点についてはスタッフが子どもたちを支援し、約2時間の試行錯誤や格闘を経て、子どもたち1人1人のアイデアが詰まった素晴らしい作品が出来上がりました。





## 9月13日東京文化会館にて 声と体で「なりたいもの」を表現する

第2回のワークショップは9月13日（日）、東京文化会館地下のリハーサル室で行われました。6人のワークショップ・リーダーたちが、子どもたちの身体表現をサポートしていきます。まずは、自己紹介も兼ねたアイスブレイク<sup>10</sup>からスタート。しかし、顔を合わせるのがまだ2回目子どもたちには、恥ずかしさや気後れもあったようです。打楽器のリズムに合わせて体を動かしたり、体を使って音を出したり、声を出したりする練習をしましたが、最初はなかなか声が出ず、落ち着かない様子の子どもも見られました。続いて、グループに分かれて自作の衣装を身に付け、とびラーの皆さんも加わって楽器で効果音やメロディー、リズムを付けながら、「なりたいもの」を表現するためのパフォーマンスを考えていきました。しかし、アイデアが出過ぎてまともななかったり、アイデアが浮かばなかったり、子どもたちも苦戦したようです。大人たちも必死に働きかけたものの、完成には至らないまま、この日のワークショップは終了となりました。絵本や図



工が好きだから、と参加した子どもも多かったためか、人前でパフォーマンスをするのはいやだ、という声も聞かれ、先行きに不安を残す結果となりました。終了後には、スタッフ全員で振り返りを行いました。次回で子どもたちの気持ちを盛り上げ、作品を完成させ、上野公園をパレードできるのか？という焦燥感が漂うものとなりました。この日の結果を踏まえ、ワークショップ・リーダーやとびラーの皆さんは多忙な本業の合間を縫って、別に日を設けてパレード全体の構成を考え、練習しました。

## 10月11日上野公園にて 本番！

そして最終回、パレードの本番です。当日はあいにくの雨。このままでは屋外でのパレードは中止せざるを得ないため、雨天用のシナリオも用意してリハーサルに臨みました。

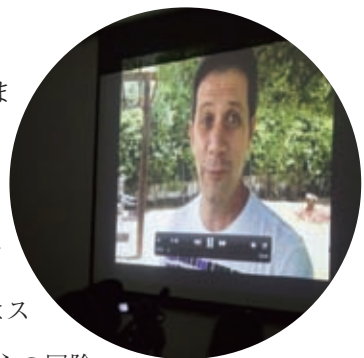
前回の振り返りを踏まえ、子どもたちが早く気持ちを切り替えられるように、練習の段階から衣装を身に付け、各グループのパフォーマンスの内容を完成させました。軽快なサンバのリズムで「ビビハドトカダブ」を繰り返す歌と行進を何回も練習し、本番に向けて密度の濃い時間が経過しました。すると、徐々に子どもたちの歌に勢いが加わり、大きい声が出るようになりました。歌は子どもたち自身の気分も高揚させるのか、楽しい雰囲気がリハーサル室に充満しました。さらに、奇跡的にリハーサル室を出る直前に雨も上がり、子どもも大人も最高潮に気分が盛り上がったところでいざ出発です！



子どもたちは、まず東京文化会館前で、保護者や通行人、外国人観光客に温かく迎えられるなか、堂々と初回のパフォーマンスを披露しました。その後、東京文化会館から噴水前まで行進して2回目のパフォーマンスを行い、さらに東京都美術館前まで行進し、最後までしっかりとやり遂げました。回を追うごとに子どもたちの歌声はますます大きく公園内に響き、子どもたちのパフォーマンスは大成功のうちに終了しました。スタッフ全員、この最終回で発揮された子どもの潜在能力の高さには驚かされるばかりで、まるで化学反応が起きたかのような経験に、大人たちの方が終了後も興奮冷めやらぬという状態でした。子どもたちからも「最初は不安だったがやってみたら案外楽しかった」という感想があり、各人各様に充実感を味わっていました。

すべてが終了し、東京都美術館アートスタディールームに到着すると、事前にメロさんに依頼して送ってもらったビデオレターが披露され、メロさんからワークショップをやり遂げた子どもたちへ賞賛

とねぎらいの言葉が贈られました。そしてスタッフからは、子どもたちひとりひとりに折り紙で作ったメダルとプレゼントが贈られました。最後はスタッフからの挨拶で「あいうえの冒険隊」は幕を閉じました。



### あいうえの連携のこれから

「あいうえの冒険隊」は、東京都美術館、東京藝術大学、東京文化会館および国際子ども図書館の館種を超えた連携で行われた初めての子ども向けの芸術ワークショップでしたが、それぞれの機関が持つ多様な人材、能力、資源が融合し、それぞれの機関の持てる力が最大限に活かされたことで、「Museum Start あいうえの」でも初の、総合的な芸術体験の場を提供し、子どもたちにも楽しんでもらうことができました。







「あいうえの冒険隊」の後にも、「放課後ミュージアム」というプログラムの一環として、子どもたちが国際子ども図書館の「子どものへや」、「世界を知るへや」を訪れ、外国語に翻訳された日本の子どもの本と日本語の原書を比較しながら鑑賞するというイベントも行いましたが、こういった異館種連携による活動により、新たな子どもの図書館利用者を開拓できる可能性を実感でき、大変に意義あるものになりました。

国際子ども図書館は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念の下、子どもと本のふれあいの場の提供を行っていますが、この「あいうえの冒険隊」や「放課後ミュージアム」の経験は、従来の図書館としての読書活動推進支援の取り組みに、新しい視点をもたらしてくれました。特に、用意したものを提供するだけに終わらず、子どもと大人が対等に向き合い、共に何かを作り上げていくという、「Museum Start あいうえの」全体を貫く姿勢からは大きな学びを得ています。MLA連携といわれる博物館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archive) の連携は、情報資源の共有の分野で既に定着してきていますが、今後は各機関の子ども向けの教育普及活動にもさらに広がっていくことが期待されます。

今年も「あいうえの」の協力事業は予定されており、今後も上野の森の各機関が連携する中で、子どもと大人が一緒になって向き合い、新たな冒険を続けていくことでしょう。ぜひ多くの方に参加し、体験していただきたいと思います。

(国際子ども図書館企画協力課 中島 尚子)

- 1 事務局を担っている東京都美術館および東京藝術大学は、「とびらプロジェクト」と称するアートを介したコミュニティ作りのための連携事業を行っており、美術関係の専門家で構成されるプロジェクト・チームと共に活動するアート・コミュニケーター (愛称: とびラー) を一般から公募し養成している。「Museum Start あいうえの」は「とびらプロジェクト」と連動して行われている。
- 2 上野の森美術館 (ビ)、国立西洋美術館 (ビ)、東京都美術館 (ビ)、東京国立博物館 (ハ)、東京都立恩賜上野動物園 (ド)、国際子ども図書館 (ト)、国立科学博物館 (カ)、東京藝術大学 (ダ)、東京文化会館 (ブ) のあいうえの連携ミュージアム (文化施設) の機関名中の文字を取っている。
- 3 国内外の演奏家の公演が行われる音楽ホールを有し、様々な音楽教育プログラムを実践する。また音楽教育プログラムの普及を担う専門家「ワークショップ・リーダー」を養成している。
- 4 前掲注1参照
- 5 前掲注3参照
- 6 1953年、国際児童図書評議会 (IBBY: International Board on Books for Young People) により創設された子どもの本の国際的な賞。長らく子どもの本に貢献してきた、現存の作家と画家の全業績に対し贈られる。IBBY各国支部から推薦された候補者の中から、国際選考委員会によって受賞者が選ばれる。
- 7 1965年ブラジルの首都ブラジリア生まれ。作家、イラストレーター、劇作家として活躍し、国内外で様々な賞を受賞している。【国内刊行作品】『はね』(曹文軒作 ホジェル・メロ絵 濱野京子訳 マイティブック 2015)
- 8 前掲注6参照
- 9 IBBYオーナーリスト (IBBY各国支部が自国の優れた児童書・絵本を紹介する) に選ばれた児童書の巡回展示。国際子ども図書館でも隔年で開催している。
- 10 氷を溶かすように参加者の緊張感を和らげ、活動しやすい雰囲気を作るために行う様々なゲーム等。



# 本の森を歩く

第14回 明治の越境者たち  
福林 靖博



関露香が訪れたバラナシ（インド）

「本の森を歩く」では、国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回ひとつのテーマに沿って蔵書をご紹介します。

『三円五十銭世界周遊実記』 依光方成 著 博文館 明治24  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/761293>



今年、平成28年は、その後の日本人海外旅行者に大きな影響を与えた『深夜特急』（沢木耕太郎著）の刊行からちょうど30年目に当たります。今回は、その先駆者ともいべき明治時代の旅行者たちの残した記録を紹介します。限られた情報と交通手段しかなかった時代に、様々な思いや目的を抱いて越境していった彼らが記した言葉は、インターネットと飛行機による旅の時代に生きる私たちに、あらためて旅の面白さを思い起こさせてくれるかもしれません。

最初に紹介するのは、<sup>よしみつほうせい</sup>依光方成という若者が残した『三円五十銭世界周遊実記』。明治時代の個人による世界一周旅行といえば、明治30年代に旅行記を出版した中村直吉や中村春吉が有名ですが、彼らより少し前の貧乏旅行記です。

同志社で学んでいた依光は、明治18（1885）年春、3円50銭を握りしめて、かねてからの宿願であった世界一周に出発しました。そして、中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ、

アメリカ、オーストラリアを4年かけて巡り、帰国後に書き上げたのがこの旅行記です。この本の面白いところは、当時の旅行記にありがちな名所の紹介や旅のエピソードを大袈裟に書くばかりでなく、訪れた街を自ら歩いて見聞した一般庶民の生活を活写することに重きを置いているところでしょう。

旅で見聞を広めた依光のその後の活躍が気になるところですが、残念なことに、明治26年、中国旅行中に亡くなったようです。「如何に長く留りて人情を察するも別に時日の割合に其利を得ざるべし、寧ろ速かに帰朝して我国将来の方向を論せん如くはなし」（p.199）と考えて帰国したもの、旅の誘惑には勝てなかったのでしょうか。

次に取り上げるのは、『<sup>のうみゆたか</sup>能海寛遺稿』。哲学館（現在の東洋大学）などで仏教を学んでいた能海は、明治34（1901）年、仏典将来のため当時鎖国下にあったチベットへ、現在の中国雲南省から潜入を試みましたが、消息を絶ちました。時に34歳。日本を発って3年余りの間、青海省・四川省など様々なルートからチベット入りを目指してきたもののいず

『能海寛遺稿』能海寛追憶会  
編・刊 大正6



能海寛



能海が訪れた理塘<sup>リタン</sup> (中国・四川省)

れも失敗し、ついには帰らぬ人となったのです。建築物の調査のため雲南を訪れた建築家の伊東忠太が伝えたところによると、明治36(1903)年に盗賊に襲われて亡くなったようです(この情報を伝えたのは、陸軍軍人の井戸川辰三とする説もあります)。

同時期にチベット入りを目指していた日本人は、能海と一時期旅を共にした寺本<sup>えんが</sup>婉雅らの他にも何人かいたことが知られています。最も有名なのは、ネパールからチベットに入り、帰国後に『西藏旅行記』を出版した河口<sup>えかい</sup>慧海でしょう。能海は、当然ながら旅行記を残すことはありませんでした。しかし、大正6年、能海の師匠に当たる仏教学者の南条文雄ら知人たちが、旅先から彼らに宛てた手紙などを集めたこの遺稿集を刊行しました。私たちは、ここにチベットへのあくなき執念を見せた能海の苦闘を垣間見ることができます。

次は、女性の書いた旅行記を取り上げます。鳥居きみ子(君子)が記した『蒙古行』です。著者は、アジアを中心にフィールドワークを展開した人類学者・鳥居龍蔵の妻といえ

ンと来る方も多いのではないのでしょうか。

明治34年に20歳で龍蔵と結婚したきみ子は、5年後の明治39(1906)年、現在の中国内蒙古自治区に位置したカラチン(喀喇沁)王府の女学堂教師として招かれたため、前年に出産した長男を残して単身赴任しました(龍蔵も数ヶ月遅れてやはり男子学堂教師として招かれ、現地で合流することになります)。本書は、日本を発った3月から現地に到着してしばらく経った5月ま

での日記を読売新聞に連載したものをまとめたもので、「我夫の恋しさに 喀喇沁の月清らなる春の夜半 しづかに思ふ君が行末」(p.66)といった、大胆な行動とは裏腹な短歌が随所に挿入されているのが特徴的です。

教師の任期が1年で切れると、きみ子は一度帰国して次女を出産、そして龍蔵のモンゴルへのフィールドワークに乳飲み子を抱えてついていくことになります。ちなみに、きみ子が後に著すことになる『土俗学上より観たる蒙古』は、この時の調査の成果です。



『蒙古行』鳥居きみ子 著 読売新聞社 明治39  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/767163>



鳥居きみ子と龍蔵





日野強が訪れたレー（インド・ラダック地方）

次に紹介するのは、軍人による情報収集の旅を記録した本です。軍人の旅といえば、騎馬で一人シベリアを横断し、『単騎遠征録』を残した福島安正が有名ですが、同じ陸軍の後輩で現在の中国新疆ウイグル自治区からカラコルム山脈を越えてインド・ラダック地方に抜けた日野強も忘れてはならないでしょう。

40歳の日野が軍命を帯びて新疆北部のイリ（伊犁）地方に向かったのは、日露戦争後の明治39年。日露戦争で辛くも勝利したとはいえ、この地方へのロシアの進出は陸軍にとって相変わらず脅威だったようです。イリ地方では清朝の庇護下に情報収集を行ったようですが、現地に住む、あるいは駐在するロシア官民の歓待を「旅行中の快事」としているのは興味深いところです。帰国後、各地の

地理・風俗・歴史・情勢等を写真や絵とともにまとめたのが『伊犁紀行』です。

日野は福島から「旅行をして有利ならしめんには、汽車よりは馬車、馬車よりは騎馬、騎馬よりは徒歩に如かず云々と。其意蓋し、旅行の苦楽に応じて其の得る所反比例を為す」（上巻、p.21）というアドバイスを受けたと書いていますが、これは現代の快適な旅に慣れた私たちには少々耳の痛い、的確なアドバイスといえるかもしれません。

次は、関露香という大阪毎日新聞の記者の書いた『本派本願寺法主大谷光瑞伯印度探検』を紹介します。大谷探検隊を組織し、時には自らも中央アジアを踏破した浄土真宗本願寺派の法主・大谷光瑞のインド旅行・仏蹟調査の一部始終をまとめた旅行記と思って読むと、内容は関自身のインド・東南アジア（ミャンマー・マレー半島）を巡る旅行記だった、という代物です（関は、他にも大谷探検隊のメンバーである橘瑞超の旅行記『中亜探検』の執筆にも携わっています）。

関は明治42（1909）年、社命を受けてインド北部の仏蹟調査に赴く大谷一行とともに

『伊犁紀行 上巻 日誌之部』  
日野強 著 博文館 1909  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/993935>







『本派本願寺法主大谷光瑞伯印度探検』  
関露香 著 博文館 1913  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1877490>

インドに入ります。しかし、移動の準備に手間取ったり病気に罹ったりして、大谷一行に追いついては置いていかれを繰り返した結果、ほとんどの行程を一人旅することになってしまいます。そのため、この本が彼の雇い主が期待していた内容となったのかどうかは分かりませんが、1970年代の沢木耕太郎だけでなく、今も旅行者を悩ますインドの列車事情など、彼が記した旅の様子は、読んでいて非常に面白いものです。

最後に取り上げるのは、日本人ムスリムとして初めてメッカ巡礼を果たした山岡光太郎によって書かれた『アラビヤ縦断記：世界乃神秘境』です。

山岡は日露戦争に通訳官として従軍した後は中国などに赴任していましたが、明治42年、29歳で陸軍を辞し、神戸から船に乗り込みます。まずインドのムンバイで、合流した同行者となるムスリムからコーランなどの講義を受けてイスラムについての基本的な知識を身につけ、さらに改宗してから中東に入ります。そして、メッカだけでなく、メディナ、アラファト山、ダマスカスなどをめぐり、翌



『アラビヤ縦断記：世界乃神秘境』  
山岡光太郎 著 東亞堂書房 1912  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1184116>

年に帰国します（本書はベイルートからイスタンブールに向けて出航したところで終わっています）。イスラムについてほとんど何も知らなかったと思われる山岡が改宗してまでメッカ巡礼に赴いたのは、陸軍からアラブ・イスラム世界の情報収集の命を帯びていたためともいわれていますが、きっかけが何であれ、結果として私たちは明治時代の日本人によるメッカ巡礼記を読むことができるわけです。

その後、山岡は敬虔なムスリムとして生活を送りつつ、中東や欧米への旅を繰り返したり、その見聞を元にした本を著したりしています。この旅が山岡の人生を大きく変えたことは間違いのないでしょう。

明治の越境者たちの記録には、これら6冊に代表されるように、100年以上の時間を隔てた現在の私たちも惹きつけるものが多くあります。彼らの残した言葉から、新たな旅に出してみるのも一興ではないでしょうか。

(ふくばやし やすひろ

調査及び立法考査局調査企画課)



今回紹介した本は、いずれも「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp/>)で全文閲覧することができます(ただし、『能海寛遺稿』のみ国立国会図書館内または図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館内からのみ閲覧可)。また、他の様々な旅行記を取り上げた「明治の越境者たち—近代デジタルライブラリー収録資料に見る日本人の海外体験—」(<https://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/entry/jousetsu138.php>)もあわせてご覧ください。

写真(バラナシ、<sup>リたん</sup>理塘、レー)は筆者撮影。



# 電子展示会 「日本の暦」を リニューアル公開しました！

<http://www.ndl.go.jp/koyomi/>

国立国会図書館では、ホームページ上に、いつでもご覧いただける電子展示会を開設しています。その中の一つ、電子展示会「日本の暦」では、暦の歴史や、当館で所蔵している絵暦、江戸時代に流行した暦の一種である大小暦や、現存する丹生暦の中でも最古といわれるもの（右ページ上参照）など、貴重な暦を数多く紹介しています。暦とは、いわば現代のカレンダーに相当するもので、日や月や季節の移り変わりを知るため、古くから暮らしに欠かせないものでした。

平成 28 年 3 月 18 日（金）に、平成 14 年の公開以来初となるリニューアルを行いました。

## ○サイトを刷新

「和」の華やかなイメージでサイトデザインを刷新しました。

文字の大きさ、読みやすい色合い、わかりやすいメニュー表示など、直感的に使いやすいデザインとしています。また、一部の画像をより高画質なものに差し替えました。

## ○より多くの人に楽しんでいただけるように

様々な大きさのディスプレイに対応できる表示方法を取り入れたほか、画像や図表にはわかりやすいキャプションやタイトルを付け、読み上げソフトへの対応なども行っています。英語版のページも提供しています。

\*「国立国会図書館ウェブアクセシビリティ方針」（平成 25 年 6 月 28 日 策定）に準拠

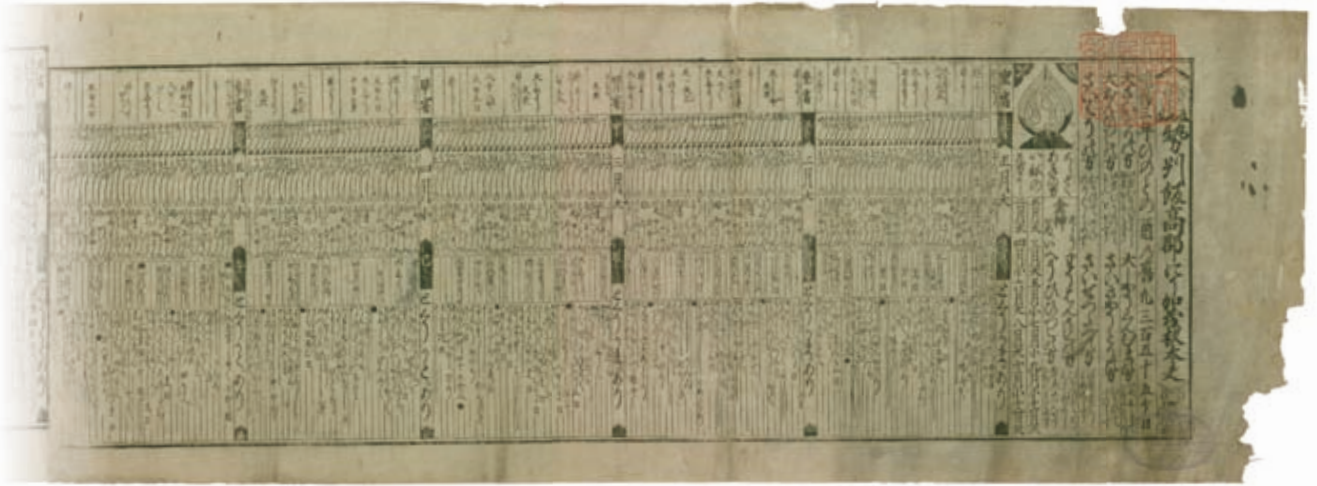


第一章「暦の歴史」では、暦の渡来から、江戸時代の改暦、明治の太陽暦採用まで、日本の暦の歴史をわかりやすく解説しています。



第三章「暦の中のことば」では、「大安」など暦の中のことばを、江戸時代の暦を使って解説しています。





[丹生曆] (明曆3年丁酉 (1657)) <請求記号 本別15-21> 伊勢地方飯高郡の伝統的な曆

## 「大小曆」を読み解く



明治時代に太陽曆が採用されるまで日本で採用されていた太陰太陽曆では、月の日数は、30日(大の月)か29日(小の月)のどちらかで、その配列は毎年異なるものでした。「大小曆」とは、絵や文章の中に月の大小と配列を折り込み、工夫をこらして楽しむようになったものです。お正月の贈答品としても使われ、後に発展する錦絵のルーツとなったともいわれます。

例えば、左の大小曆にも「大の月」「小の月」が示されています。さて、どのように読み解くのでしょうか？(右側が解答です)

「大小曆クイズ」コーナーでは、他にも様々な大小曆の謎解きを体験していただけます。ぜひお試しください！

[絵曆貼込帳]より(文久2年壬戌(1862)大小曆)  
<請求記号 寄別13-64>



河鍋暁斎画 [絵曆貼込帳]より(慶応4年戊辰(明治元、1868)大小曆) <請求記号 寄別13-64>



[大小曆張交帖]より(文久2年壬戌(1862)大小曆) <請求記号 本別15-21>



惠合余見(天明7年丁未(1787)大小曆) <請求記号 WA33-1>



# 5月25日は納本制度の日

図書、雑誌、新聞、音楽CD、DVD、楽譜、地図……

国立国会図書館は、法律で定められた「納本制度」に基づき、日本で発行された出版物を広く収集しています。納められた出版物は、現在と未来の多くの読者のために、日本の文化的財産として、長く保存されます。

国立国会図書館では、昭和23年5月25日に最初の納本を受け付けたことを記念し、毎年この日を「納本制度の日」と定めました。

## いろんな雑誌と出会う日々

書店には、沢山の雑誌や新聞が並んでいる。ビジネス誌、趣味誌、学術誌。全国紙、業界紙、地方紙。そのうち、一人の人間が一生の間に手で触れるものは、何種類くらいだろうか。日本でいちばん、多種多様な雑誌・新聞に触れる機会に恵まれた人々、それは逐次刊行物・特別資料課受入係の職員だろう。

受入係の朝は、郵便トラックの出迎えから始まる。荷物受取専用のガラス戸を挟んで、バックで接近する郵便トラックを眺める。トラックの荷台が開いたら、ガラス戸を開けて荷卸し！荷卸し！四角いザルのようなコンテナを受けとり、中身を大机にあけていく。

写真のコンテナ6箱は、この日届いた物量の、ほぼ4分の1だ。届いたものは、収集部門の職員総出で、おおむね十通りくらいに振り分ける。これは事務用の文書だから、開封しないで総務課へ渡す。これは官庁出版物。これは民間出版物。おっと、これは誤配されたもの。この大学は…国立大だから、官庁のほうか。これは新聞だが、受入係行きではないな。あっちのヘブライ語のは、外国刊行の新聞。だから外国資料課へ渡す。こっちの英文誌も外国…じゃない、これは国内の学会が発行する、日本の民間出版物か。あぶない、あぶない。

このとき！受入係にいないれば一生目にすることのなかったであろう雑誌を、目にして手で触ることができる。『月刊錦鯉』（請求記号 Z74-F386）。鯉の表紙が、きれいだ。『愛鳩の友』



（請求記号 Z18-153）。鳩の円らな目が、かわいい。『日刊かつおまぐろ通信』（請求記号 Z38-38）。魚の絵が、旨そうだ。どれも、その道の方には知られた雑誌なんだろう。でも私は、受入係に来なければ、一生その存在を知らないまま過ごしたはずだ。

振り分けが済んだら受入係では、国内発行の新聞や雑誌を持ち帰る。そして、どの雑誌の何号が届いたのかをコンピュータに記録する。さらに雑誌の現物には、当館所蔵資料の証拠となるラベルを貼り、新聞には押印するのだ。休み明けには、その数3,000点を超えることも多い。

新聞や雑誌に、発行されて大分経つのに届かない号があったら、発行者に納本を働きかけるのも大切な仕事だ。だから、万一あなたが雑誌の発行者で、最新号の納本を忘れていたら、連絡がいく前に送っていただけると、とても有難い。

（逐次刊行物・特別資料課受入係 ウケ太）



# 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 三重県史

資料編 古代・中世 (上・下・別冊)

三重県 編・刊 2015. 3

976p, 817p, 169p 22cm (上・下), 21cm (別冊)

<請求記号 GC145-L25, L26, L27>

2015年、日本中世史に興味のある人が顔を合わせさえすれば、まるでお天気のあいさつでもするように、『三重県史 資料編 古代・中世』のうわさをしていました。——なぜ『三重県史』? その理由を説明しましょう。

たいていの県史は、通史編と資料編に分かれています。県史編纂事業はまず関係史料の調査・収集から始まり、それをもとにして県の歴史が通史編として書かれます。また、調査・収集した史料の一部(古代・中世は網羅的、近世・近代は選択的)が活字化され、資料編に収められます。これらは県以外の自治体史でもおおむねあてはまります。

県史の資料編に収められるのは、県内各地に所蔵されている県内文書が中心ですが、県の外の史料(県外文書)を収める場合もあります。『三重県史』資料編の特徴は、県内文書編、県外文書編に加え、中世・古代の荘園文書編として、今回紹介する『三重県史 資料編 古代・中世』が別立てで刊行されたことにあります。

本書は、三重県(かつての伊勢国、伊賀国、志摩国の全部、および紀伊国の一部)内の荘園の関係史料を、荘園ごとに配列しています。第一部「東大寺領」は、伊賀国黒田荘、伊賀国玉瀧荘、伊賀国山田郡諸荘、その他に、第二部「東寺領」は、伊勢国川合荘・大国荘、伊賀国平柿荘、その他に、第三部「醍醐寺領」は、伊賀国阿保神田、伊勢国智積御

厨、伊勢国黒田荘(南黒田御厨)、伊勢国曾禰荘、伊勢・志摩国法楽寺領、その他に、それぞれ分かれます。付属の別冊には、細目次や解説が収められています。

このなかでも白眉は、上巻すべてを占める、東大寺領伊賀国黒田荘の関係史料です。その関係史料の多さから、黒田荘は日本史上もっとも有名な荘園のひとつであり、一般的な荘園イメージの基礎のひとつになっています。特に、黒田荘を舞台に<sup>さてつ</sup>荘民の敗北と蹉跌を描いた石母田正『中世的世界の形成』(初版1946年)は戦後歴史学を草創する名著であり、黒田荘の重要性を確固たるものにしました。

ところが、黒田荘関係史料を網羅した史料集はこれまでありませんでした。竹内理三編『伊賀国黒田荘史料』(全2巻、吉川弘文館、1975-1979年)は編年順で関係史料を集成していますが、鎌倉時代の初期で中絶しています。奈良・平安時代から安土桃山時代までの黒田荘関係史料1448点を収める本書は、待望の決定版といえるでしょう。

現地を支配しようと知恵をしぼる僧侶、年貢減免をもくろむ百姓、寺に抗い蜂起する悪党、外部から進駐してくる守護……本書をひもとき、耳をすませば、中世のひとつの生々しい声が聞こえてくるかもしれません。

(収集書誌部収集・書誌調整課 <sup>きのした</sup>木下 <sup>りょうま</sup>竜馬)



## 新館長就任



大滝則忠館長が平成28年3月31日付けで退任し、平成28年4月1日付けで羽入佐和子<sup>はにゅう</sup>が16代目の国立国会図書館長に任命された。羽入館長は、平成8年から国立大学法人お茶の水女子大学教授、平成17年から同大学副学長兼附属図書館長を経て、平成21年4月から平成27年3月まで同大学学長。平成27年4月から平成28年3月まで理化学研究所理事。昭和23（1948）年生まれ。

## 法規の制定

【規則第2号】 国立国会図書館資料利用制限措置に関する規則

【規則第3号】 国立国会図書館資料利用規則等の一部を改正する規則

（いずれも平成28年3月23日制定）

人格的利益の侵害等により利用に供することが不相当と認められる資料の利用を制限する措置をとるに当たっての基本方針、措置の対象となる資料の要件、資料利用制限措置およびその再審査や苦情に係る手続、資料利用制限審査会設置等を定める規則を制定した。当該規則の制定に伴い、国立国会図書館資料利用規則（平成16年国立国会図書館規則第5号）等について、所要の規定の整備を行った。これらの法規は、4月1日から施行された。

【規則第4号】 国立国会図書館視覚障害者等用資料送信及び貸出規則の一部を改正する規則

（平成28年3月23日制定）

視覚障害者等が視覚障害者等用データの送信を受けるための登録の申請を郵送その他来館以外の方法によっても行うことができることとした。4月1日から施行された。



**【規則第5号】 学校図書館等児童書貸出規則の一部を改正する規則**

(平成28年3月23日制定)

学校図書館等への貸出用コレクションの貸出期間について、7週間以内に延長することとした。4月1日から施行された。

**【規則第6号】 国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則**

(平成28年3月23日制定)

国立国会図書館資料利用制限措置に関する規則（平成28年国立国会図書館規則第2号）の制定に伴い、所要の規定の整備を行うほか、収集書誌部外国資料課において、整理した収集資料および電子情報の標目に係る典拠データの作成に関する事務を行うこととした。4月1日から施行された。

国立国会図書館資料利用制限措置に関する規則ならびにこれらの法規による改正後の国立国会図書館組織規則（平成14年国立国会図書館規則第1号）、国立国会図書館資料利用規則、国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則（平成12年国立国会図書館規則第4号）、国立国会図書館視覚障害者等用資料送信及び貸出規則（平成25年国立国会図書館規則第6号）および学校図書館等児童書貸出規則（平成14年国立国会図書館規則第11号）は、国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws/index.html>）に掲載している。

### おもな人事

#### <辞職>

平成28年3月31日付け

専門調査員	調査及び立法考査局総合調査室主任	金箱	秀俊
専門調査員	調査及び立法考査局政治議会調査室主任	棟居	快行
専門調査員	調査及び立法考査局外交防衛調査室主任	等	雄一郎
専門調査員	調査及び立法考査局財政金融調査室主任	山口	和之
専門調査員	調査及び立法考査局農林環境調査室主任	茅野	千江子
専門調査員	調査及び立法考査局国土交通調査室主任	齋藤	純子
専門調査員	調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任	吉本	紀
専門調査員	調査及び立法考査局議会官庁資料調査室主任	原井	直子
司書監	利用者サービス部付	堀内	寛雄

#### <退職>

司書監	総務部付	大塚	奈奈絵
司書監	収集書誌部付	安積	曉美

#### <異動>

※ ( ) 内は前職

平成28年4月1日付け

専門調査員	調査及び立法考査局長、海外立法情報調査室主任事務取扱 (専門調査員 調査及び立法考査局長)	石川	武敏
専門調査員	調査及び立法考査局総合調査室主任 (専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任)	坂田	和光
専門調査員	調査及び立法考査局総合調査室付 (国際子ども図書館長)	佐藤	毅彦
専門調査員	調査及び立法考査局議会官庁資料調査室主任 (専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付)	福士	輝美
専門調査員	調査及び立法考査局農林環境調査室主任 (衆議院法制局第二部長)	浅野	輝彦
専門調査員	調査及び立法考査局海外立法情報調査室付、文教科学技術調査室付兼務 (専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付)	豊田	透
専門調査員	調査及び立法考査局政治議会調査室主任 (主幹 調査及び立法考査局総合調査室付)	山田	邦夫
専門調査員	調査及び立法考査局外交防衛調査室主任 (主幹 調査及び立法考査局政治議会調査室付、政治議会課長事務取扱)	廣瀬	淳子
専門調査員	調査及び立法考査局財政金融調査室主任 (主幹 調査及び立法考査局財政金融調査室付)	加藤	浩
専門調査員	調査及び立法考査局経済産業調査室主任 (東洋大学経済学部教授)	益田	安良



専門調査員 調査及び立法考査局国土交通調査室主任 (主幹 調査及び立法考査局国土交通調査室付)	山崎 治
専門調査員 調査及び立法考査局社会労働調査室付 (主幹 調査及び立法考査局社会労働調査室付)	岡村 美保子
国際子ども図書館長 (利用者サービス部副部長、サービス企画課長事務取扱)	本吉 理彦
司書監 総務部付 (司書監 総務部付、国際子ども図書館企画協力課長兼務)	原田 圭子
総務部副部長 (総務部副部長、総務課長事務取扱)	小寺 正一
主幹 調査及び立法考査局付、国会分館長事務取扱 (主幹 調査及び立法考査局総合調査室付、国会レファレンス課長事務取扱)	林 雅樹
主幹 調査及び立法考査局総合調査室付 (関西館次長)	岩澤 聡
主幹 調査及び立法考査局経済産業調査室付 (主幹 調査及び立法考査局経済産業調査室付、経済産業課長事務取扱)	小池 拓自
収集書誌部副部長、収集・書誌調整課長事務取扱 (総務部副部長、人事課長事務取扱)	山地 康志
司書監 総務部付 (国際子ども図書館資料情報課長)	堀 純子
主幹 調査及び立法考査局財政金融調査室付、財政金融課長事務取扱 (主任調査員 調査及び立法考査局財政金融調査室付)	深澤 映司
主幹 調査及び立法考査局農林環境調査室付、農林環境課長事務取扱 (調査及び立法考査局議会官庁資料課長)	樋口 修
主幹 調査及び立法考査局文教科学技術調査室付、文教科学技術課長事務取扱 (調査及び立法考査局調査企画課長)	ローラー ミカ
主幹 調査及び立法考査局社会労働調査室付、社会労働課長事務取扱 (調査及び立法考査局社会労働課長)	泉 眞樹子
司書監 収集書誌部付 (主任司書 収集書誌部付)	大嵐 薫
利用者サービス部副部長、サービス企画課長事務取扱 (関西館総務課長)	遊佐 啓之
電子情報部副部長、電子情報企画課長事務取扱 (収集書誌部収集・書誌調整課長)	川鍋 道子
関西館次長 (利用者サービス部人文課長)	中渡 明弘

**国際政策セミナー****「グローバル化の中の  
議会の役割—欧州の経験  
から日本への示唆」**

2月18日、フランスの有力な公法学者の一人であり、憲法および議会法の専門家であるジャン=エリック・ジッケル氏（Prof. Dr. Jean-Éric Gicquel, フランス・レンヌ第1大学法学・政治学部教授）を招へいし、東京本館で標記セミナーを開催した。

ジッケル氏は「フランス議会と政府の責任」と題する基調講演を行い、第5共和制の特色、議会による政府統制、ヨーロッパ政策に関する議会の政府統制について紹介した。

これを受けて、パネリストの山元一氏（慶応義塾大学大学院法務研究科教授）および伊藤洋一氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）が、欧州議会とフランス議会の緊張と協働、EUレベルの議会主義化と国内レベルの対応に関して、それぞれコメントした。

その後、ジッケル氏を交えてパネルディスカッションが行われ、また会場の参加者から多数寄せられた質問に各パネリストが回答した。主な質問は、欧州議会における会派の態様、EUの意思決定における欧州議会・各国議会の役割、組織化されたヨーロッパ市民社会の可能性等であった。

本セミナーの記録は、平成28年度内に刊行する予定である。



## 平成27年度 書誌調整連絡会議

3月3日、東京本館において、「新しい『日本目録規則』：記述の規定を中心に」をテーマとして、平成27年度書誌調整連絡会議を開催した。会議では最初に、日本図書館協会目録委員会と連携して進めている新しい『日本目録規則』（以下、「新NCR」という）の策定作業について、日本図書館協会目録委員会委員長で帝塚山学院大学教授の渡邊隆弘氏から進捗状況等の発表があった。当館からは、これまで検討した記述の規定の素案について報告するとともに、新NCRを適用したデータ事例等を紹介した。続いて、慶應義塾大学教授の谷口祥一氏、東北学院大学教授の佐藤義則氏から、当館が提示した記述の規定の素案に対して、国内書誌調整や書誌データの相互運用性の観点からの要望等について発表があった。また、研究者や図書館、書誌データ作成機関等との間で意見交換を行った。

会議の概要と資料は、以下のページに掲載している。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国立国会図書館について > 書誌データの作成および提供 > 書誌データの基本方針と書誌調整 > 書誌調整連絡会議 ([http://www.ndl.go.jp/jp/data/basic\\_policy/conference/index.html](http://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/conference/index.html))

また、新NCRについての情報は、以下のページに掲載している。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国立国会図書館について > 書誌データの作成および提供 > 新しい『日本目録規則』（新NCR）(<http://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/index.html>)







## お知らせ

---

### ■ 日仏フォーラム 「書籍とデジタル」

国立国会図書館では、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本と共催で、デジタル時代における日本とフランスの出版事情や図書館の役割に関するフォーラムを開催します。

仏日同時通訳付き、入場無料です。ぜひご参加ください。

- 日 時 6月13日（月）9：45～18：30（9：15開場）
- 会 場 国立国会図書館東京本館 新館講堂（定員250名）
- プログラム 第一部：デジタル時代の創作と読書：本の新しい形と新たな読書の  
（仮） 形態とは？  
第二部：電子書籍と図書館の役割—長期アクセス保証と納本制度  
第三部：電子書籍の経済
- 共 催 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
- 後 援 日本書籍出版協会
- 協 力 フランス国際出版事務所（BIEF）
- 参加費 無 料
- 申込方法 平成28年6月8日（水）12：00までに、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本トップページ掲載のフォーラム案内からリンクしている「参加申込みフォーム」にてお申し込みください。  
定員に達した時点で受付を終了します。  
アンスティチュ・フランセ日本ホームページ  
<http://www.institutfrancais.jp/>
- 申込み・問合せ先  
在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本  
電話：03（5798）6000



## お知らせ

---

### ■ 東京本館 「利用ガイダンス」

東京本館では、初めて国立国会図書館を利用する方向けに、基本的な使い方を紹介する「利用ガイダンス」を開催しています。参加は無料です。

どうぞお気軽にご参加ください。

- 開催内容 国立国会図書館の概要（5分）  
利用者端末の概要と、資料の閲覧・複写方法（25分）  
東京本館の館内ガイド（10分）  
新館書庫見学（30分、希望者のみ）
- 開催日時 毎月第2、第4木曜日 14:00～
- 参加方法 開催当日に、本館・新館の各インフォメーションでお申し込みください。
- 定員 各回5名程度（先着順）
- 問合せ先  
国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 総合案内係  
電話 03（3581）2331（代表）

※開催日が休館日にあたる場合は、他の日に開催することがあります。

最新の日程はホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 東京本館

> 東京本館のイベント・展示会情報 > 東京本館の利用ガイダンス

URL [http://www.ndl.go.jp/jp/service/tokyo/events/tokyo\\_guidance.html](http://www.ndl.go.jp/jp/service/tokyo/events/tokyo_guidance.html)

## お知らせ

### ■ 新刊案内

#### 国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第267号 A4 261頁

季刊 1,800円(税別) 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-784-9)

<特集：国と社会の安全と安定>

特集「国と社会の安全と安定」序

米国自由法—米国における通信監視活動と人権への配慮—

イギリスの2011年テロリズム防止及び調査措置法—テロリスト容疑者対策の変遷—

フランスにおける難民庇護法の改革

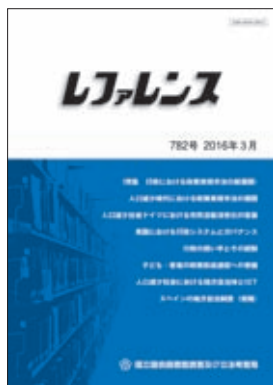
ドイツにおける移民及び難民の滞在資格

ロシアの難民政策—難民法制を中心として—

韓国における感染症対策の強化

中国の新たな国家安全法制—国家安全法と反テロリズム法を中心—

マレーシアの2015年テロリズム防止法



レファレンス 782号 A4 142頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会

<特集：行政における政策実現手法の新展開>

連携事業の成果の報告にあたって

人口減少時代における政策実現手法の展開

人口減少社会ドイツにおける市民活動活性化の意義

英国における行政システムとガバナンス

行政の担い手とその統制

子ども・若者の政策形成過程への参画

人口減少社会における地方自治体とICT

スペインの地方自治制度—自治州国家体制の新しい在り方とカタルーニャ独立  
運動を問う—(短報)



## お知らせ



カレントアウェアネス 327号 A4 34頁 季刊 400円(税別) 発売 日本図書館協会

<小特集：東日本大震災から5年>

震災時の図書館における事業継続への取組 —仙台市図書館の経験から—

「東日本大震災の被災地における移動図書館の役割

宮城県内の自治体による震災アーカイブの概況

東日本大震災で被害を受けた公共図書館等への支援の動向

ジャンル・形式用語の動向 —米国議会図書館の取組みをはじめとして—

<動向レビュー>

ACRL 高等教育のための情報リテラシーの「枠組み」 —白熱する議論に向けて—

<研究文献レビュー>

都道府県立図書館論

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812



参考書誌研究 77号 A5 269頁 不定期刊 3,600円(税別) 発売 勉誠

出版株式会社

(特集) 日本占領関係資料収集の歩み

はじめに

アメリカにおける日本占領関係資料収集の現在—2010年～2015年

占領期資料収集プロジェクト研究会—初期を中心に

1970年前後の占領史研究とその周辺

ブランゲ・ネットワーク

展示会余話

平成26年度企画展示「あの人の直筆」

書誌

国立国会図書館所蔵『発禁図書番号目録』安寧ノ部・風俗ノ部

入手のお問い合わせ

勉誠出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-2 共立ビル7F

電話 03 (5215) 9021

## C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>  
 “*Chō to kaigara: Migishi Kōtarō hissai sobyōshū*” — a collection of poesies,  
 left by a painter before his premature death
- 04 New services of the International Library of Children’s Literature (ILCL)
- 10 Exhibition commemorating renovation of the ILCL:  
 “Facing the Reality, Soaring in the Fantasy: Fifty years of modern Japanese  
 translations of children’s books from abroad”
- 16 Jump into the Ueno Forest, Aiueno adventurers!: a new form of cooperation  
 beyond libraries
- 22 Strolling in the forest of books (14): Overseas travelers during the Meiji era
- 29 <Tidbits of information on NDL>  
 Days of encountering a wide variety of periodicals
- 26 TOPIC  
 ○ Digital exhibition “The Japanese Calendar”  
 revamped
- 30 <Books not commercially available>  
 ○ “*Mie kenshi: Shiryō hen, kodai/chūsei*” (*jō/ge/*  
*bessatsu*)
- 31 <NDL NEWS>  
 ○ New Librarian  
 ○ Rules & regulations  
 ○ Changes in personnel  
 ○ International Policy Seminar “The functions of  
 parliament in the global era—suggestions for  
 Japanese politics from the EU experiences—”  
 ○ Conference on bibliographic control FY2015
- 37 <Announcements>  
 ○ Japan-France Forum “Books in the digital era”  
 ○ Tour: How to use the Tokyo Main Library  
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 28 年 5 月号 (No.661)

平成 28 年 5 月 1 日 発行

発行所 国立国会図書館

編集者 秋 山 勉  
 責任者

印刷所 株式会社 丸井工文社

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1  
 電 話 03 (3581) 2331 (代表)  
 F A X 03 (3597) 5617  
 E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
 本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
 本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『蝶と貝殻 三岸好太郎筆彩素描集』から  
三岸好太郎 著 芸術学研究会 昭和9（1936）年  
1冊 31cm  
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます  
（国立国会図書館／図書館送信参加館内限定）

## 国立国会図書館月報

平成28年5月1日発行（毎月1回1日発行）  
（5月号通巻661号）